【ねがいましては】

令和元年１１月２５日　　*KYOWA SCHOOL*
第３４９号

「身近」

ある日の新聞、最近の親や教員には、子どもとの関わりに自信の持てない方がふえているという記事がありました。自信がなくなると、積極的に子どもに声をかけることがなくなっていきます。その中には、「嫌われたらどうしよう」「誤解されたらどうしよう」などといった感情がひそんでいるのかもしれません。家庭内でそのようなことが起こり始めると、子にはどのような影響が出るのでしょう。まず考えられるのが、「お母さんに嫌われたのかもしれない」「お母さんに見放されたのかもしれない」・・・つまりお子さんもお母さんに対しての自信がなくなっていくという負の連鎖が生じがちになるということです。

いかに日常の会話が大切か・・・。ご家庭内で交わされる会話、内容はといえばどのようなものなのでしょうか。お読みになっている方には、是非、回想されていただきたいのです。子どもたちにとって触れていただきたくない会話ベスト１は、間違いなく勉強に関してでしょう。テスト・成績はワーストに入るでしょう。では何を話せばいいの・・・と、悩んでしまう方は、かなり危険度が高い状態かもしれません。

ふと、その記事の紙面上部にあった記事、EXILE に加入されている方の記事です。高校時代、不登校になったそうです。毎日何をすることもなく自宅で過ごしていると、ある日そんな彼を見かねた兄から「とにかく家にいるな、渋谷に行け」と言われたそうです。ご本人は、かねてから音楽に関心を持っていたそうで、将来は音楽で飯を食うと考えていたそうです。いざ渋谷へ行ってみると、音楽の専門学校や体験入学など、様々な出会いがあったそうです。それまでは「学校がすべて」と、なっていた彼にとっては、外の世界を知り、世の中を見る目が大きく変わったそうです。そのような時がしばらく続いたある日、親から、「将来シンガーソングライターになるのであれば、高校生の気持ちも分かっておいた方がいいのでは」と言われ、高校へ戻ったそうです。

お勧めは、「ご家族一緒に外へ出てみては」・・・です。時折、子どもたちに話すことがあるのですが、「ワンコイン旅いいかもよ」・・・「片道５００円でいいから切符を買って、気ままな旅へ出かけてみよう。」です。その降り立った駅周辺を散策してみる・・・いろんな出会いが待っている・・・。「へー、こんなお店があったんだ」「あっ、この家、〇〇さんの家とそっくりだ」「こんなところにお地蔵さんがあるよ」などなど・・・。親と一緒に歩く・・・。子と一緒に歩く・・・。目線を同じにしながら歩く・・・。知らずのうちに会話がはずみ出す・・・。「今度は〇〇へ行ってみようか。」

学校、会社、ひとつの器の中だけを往復する生活。いつの間にか見えるものはある決まったものだけ、周りの動きに流され、その動きの中に身を投じ、「これが安心感というものだ」と、負の納得を埋め込んでしまう生活。

「生きる」・・・本当に生きているのかな・・・。

先日、ある街を散策する機会がありました。のんびりと行き交う人たちを眺める。のんびりと街並みを眺める。のんびりと景色を眺める・・・そのひとつひとつに人々の日々の暮らし、人生が広がっています。生きているなー、と、うなずかせてくれる表情があります。

「笑顔」です。やっぱり笑顔は、人にしか作ることのできない最高の感情なのだなと気づかせてくれます。お店の方が、「ありがとうございました」と、笑顔をつくる。片方、「もう、疲れ切ってしまってそれどころじゃないんだ」といったような表情の方もいらっしゃいます。アルバイトの高校生くらいの子だったかな・・・。表情を見ていても、動きを見ていても、忙しそうです。笑顔がありません。女の子だったかな・・・。

そこで私も含め反省しきりです。「働かせていただいて、感謝です。健康な体を戴いているからこそ、こんなに動くことができます。ありがとうございます。」なんですね。

いやー、やっぱり旅はいいものだ・・・。

私自身がかなり神経細やかな性格なので、いつも働く方々を深々と観察してしまいます。

そして日常の自分と重ねます。「私ははたして・・・？」いつも思うことが、反省です。自分を客観的に見つめ直してみる。今の自分はこれでいいのだろうか・・・。「いやー、それではまずいのではないですか。もっと・・・。」と、反省しか出てきません。つまり、勉強のやり直しを常々迫られているのです。

そうなんです。どうか月に一度で結構です。月例会ですね。ワンコイン旅・・・お勧めいたします。

部活、塾、他の習い事・・・などなど、お忙しいのは１００も承知なのですが、今のこの「忙しいが当たり前」の時代に、ワンコインという「贅沢」を味わってみてはいかがでしょうか。

身近にいらっしゃる方々の一言がひとりの人生を大きく変えます。内（うち）にいるのではなく、外にその答えがあるように思います。学校や会社は義務的な要素が色濃く存在します。外へ出てみてはいかがでしょうか。そして世界でたったひとりの自分を雲の上から眺めることをなさってみませんか。

「あっ、こいつ、またあそこでうろうろして・・・早くふんぎりつけて決断下しなさい。」と、自分で自分に叱咤激励をなさってみてください。日々反省・・・。